

# 物理学入門の新刊、点訳本に

## 視覚障がい持つ研究者ら 専門家と協力

最先端の物理学研究を分かりやすく解説した入門書「宇宙と物質の起源」とその点訳本がこのほど完成した。専門知識が必要な理科系書籍の点訳本は少ないといい、製作チームは視覚障がい者用の機器で読める点字データをインターネットで公開するとともに、通常版の印税などを基に、点字図書館などを通じて普及を図る。

### 高エネ研と筑波技術大製作

同書は、138億年前に宇宙が誕生し、そこから物質、地球、生命が生まれた過程を高エネ研・加速器研究機構の研究者が最新の知見や実験を使って解説。高校生以上を想定し、通常版は講談社ブル



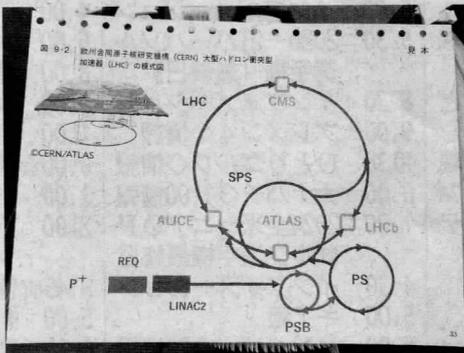
宇宙と物質の起源を解説した入門書の点訳本と執筆、製作した高エネ研・加速器研究機構と筑波技術大の研究者ら。東京都千代田区の文部科学省

バックスから3月発刊された。製作に当たったのは高エネ研と、日本で唯一の視覚・聴覚障がい者向けの国立大、筑波技術大。従来は、既刊本をボランティアらが点訳することが多く、視覚障がい者に分かりにくい図や表現が含まれることもあったが、今回は執筆段階から、点訳の専門家や視覚障がいを持つ研究者らが協力。アイデアを出し合いながら製作を進めた。

スイスにある欧州合同原子核研究所(CERN)の大型加速器「LHC」の図は、通常版では斜め上からの視点で3次元的に描かれていたが、点訳者が「円形の加速器を楕円形と誤解しやすい」と指

摘。手で触れる「触図」では、真上から見た形にするなどの工夫を凝らした。

製作チームの藤本順平・高エネ研シニアフェローは、当事者の方に試読してもらい、頂いた意見も励みになった。やってよかったと笑顔。筑波技術大の宮城愛美准教授も「この分野の一流の研究者とやりとりしながら点訳する、恵まれた機会を頂いた」と振り返った。



視覚障がい者が図表などを手で触って分かるようにした「触図」。通常版の図(左上)

は斜め上からの視点で3次元的に描かれているが、触図では真上から見た図で、円形が分かるようにしてある。東京都千代田区の文部科学省